

みんなで ともに 乗り越えよう

浪江町を復興していくためには、町民の生活再建・健康管理、インフラの復旧、将来に向けたまちづくり、賠償問題、絆の維持など多くの課題があります。

その中で、町がどのような取り組みをしているのかをお知らせします。

町内で営業を再開しました



浪江町商工会

町民の
皆さんへ

平成28年10月4日(火)より毎週火曜日・木曜日、浪江町内で一部の業務を再開しております。地域経済の復興を後押しする経営支援拠点づくりを目指していきます。事業再開・再開後の相談など、事業者の皆さまのお役に立てればと考えておりますので、お気軽にご相談ください。

浪江町商工会 会長 原田 雄一

開館日：毎週火曜日・木曜日（祝日を除く）

開館時間：10時～15時

〒979-1521 浪江町大字権現堂字下川原9-1

TEL 0240(35)3321

※会議・出張と重なる場合は、日時等が変更となります。

問 産業振興課商工労働係 TEL 0240(34)0247

原発事故による損害賠償でお困りの方へ ADRセンターが無料で和解仲介します

東京電力の提示金額に納得できない方など、どなたでも当センターをご利用頂けます。現在の申立て以外の損害についても、申立て可能です。また、裁判よりも手続が簡便かつ無料※1で、ご本人様お一人でも申立てができます。証拠書類がない場合でも申立て可能であり、仲介手続きの中で、センターの調査官が不明な点を丁寧にお伺いします。

手続きが終了している18,515件のうち、8割強である15,368件※2が和解成立に至っています。

※1 送料等の実費は発生します。 ※2 平成28年9月末現在の件数です。

最近の和解事例

避難指示解除準備区域（浪江町）の自宅兼店舗において自営業を営んでいたが、原発事故により避難を余儀なくされた申立人について、平成27年1月に営業を再開するために要した、自宅兼店舗の貸借のための初期費用および店舗部分の新装工事費用等が賠償された事例（和解事例1074）。

※和解事例は、あくまで申立人の個別事情に基づいて和解した例であり、一般的に適用される基準ではありません。

お問い合わせ先 原子力損害賠償紛争解決センター 無料電話 0120(377)155

平成27年度 河川放射能影響調査モニタリング結果

■種苗名：イワナ

(単位：ベクレル/kg)

場 所	測定日	セシウム134	セシウム137	合 計
(請戸川) 白追	6月20日	130	540	670
	9月5日	180	760	940
	10月27日	130	580	710
(請戸川) 白追	6月20日	56	270	326

(ドレス部分)

(単位：ベクレル/kg)

場 所	測定日	検体数	セシウム137平均	範 囲
(請戸川) 萱塚橋	4月17日	2	2,296	1,650~2,942
	6月10日	2	2,862	2,802~2,923
	8月6日	7	4,888	1,764~10,098
	9月17日	9	5,380	1,679~13,477
	10月6日	3	3,908	2,075~6,145
(請戸川) 小出谷	10月15日	3	6,889	2,071~11,717
	12月17日	4	1,771	1,197~2,284
(高瀬川) 赤下	8月6日	5	591	356~1,028
	9月17日	4	522	386~726
	12月18日	14	851	150~2,264

■種苗名：ウグイ

(ドレス部分)

(単位：ベクレル/kg)

場 所	測定日	検体数	セシウム137平均	範 囲
(請戸川) 掃部関頭首工	6月3日	1	351	
	10月4日	6	588	458~734
(請戸川) 不動滝	7月31日	2	674	648~700
(請戸川) 小出谷	12月17日	5	3,559	2,012~6,901
	平成28年3月1日	8	3,864	1,820~9,320
(高瀬川) 赤下	9月17日	1	570	
	12月18日	2	749	622~875
(高瀬川) 鷹ノ巣橋	9月29日	4	672	354~1,111

※いずれも種苗全部(頭・内臓・筋肉・皮)での計測

※ドレス部分とは頭と内臓を除いた残り全体を測定したもの(福島県内水面水産試験場提供データ)

問 室原川・高瀬川漁業協同組合 福島仮設事務所 TEL 024(572)5836

ここからは広告です。

水素水サーバー い〜水 H₂ 販売及びレンタルを始めました!

カラダに水素、できたての水素水。
安全 安心 健康

「い〜水 H₂」とは

「い〜水 H₂」は、一般の水道水やガロンボトルの水から水素を豊富に含む水を生成する画期的なサーバーです。本サーバーは水を純水にまでろ過した上で、溶存水素濃度の高い中性の水素水を作ることができるので、口あたりの良いまろやかな水素水をお楽しみいただけます。



誠意と技術で奉仕する
東北工業建設株式会社

詳細は当社ホームページをご覧ください!

[東北工業建設株式会社](#) 検索

お問い合わせは 環境衛生事業部まで
TEL.024-573-4127

■種苗名：鮎

(単位：ベクレル/kg)

場 所	測定日	検体数	セシウム137平均	範 囲
(高瀬川) 鷹ノ巣橋	6月11日	14	93	56~158
	6月24日	9	112	46~194
	7月30日	14	114	75~196
	9月29日	8	190	121~268
(高瀬川) 酒井橋	10月15日	4	137	36~224
(請戸川) 掃部関頭首工	6月3日	2	1,155	983~1,327
	6月10日	7	1,052	677~1,408
	6月24日	2	243	107~378
	7月30日	3	607	389~947
	9月29日	8	657	477~1,088
	10月14日	8	931	715~1,118

■種苗名：ヤマメ

(単位：ベクレル/kg)

場 所	測定日	セシウム134	セシウム137	合 計
(請戸川) 白追	3月20日	230	1,100	1,330
	4月24日	370	1,700	2,070
	5月28日	210	930	1,140
	6月20日	39	150	189
	7月18日	120	540	660
	8月14日	280	1,200	1,480
	9月5日	750	3,400	4,150
	10月17日	160	700	860
	(請戸川) 小塚	4月24日	62	310
5月28日		130	530	660
6月20日		56	290	346
7月18日		140	630	770
8月14日		130	600	730

(ドレス部分)

(単位：ベクレル/kg)

場 所	測定日	検体数	セシウム137平均	範 囲
(請戸川) 萱塚橋	6月3日	1	408	
	6月10日	3	5,742	5,308~6,310
	8月6日	4	9,338	6,610~12,015
	9月17日	9	7,858	2,790~20,952
	10月15日	6	4,274	3,590~4,918
	11月12日	1	3,091	
(請戸川) 塩浸	6月10日	5	934	682~1,365
(請戸川) 小出谷	12月17日	32	2,673	1,082~9,375
	平成28年3月1日	20	1,643	858~2,808
(高瀬川) 赤下	8月6日	17	938	320~2,503
	9月17日	19	1,217	427~4,675
	12月18日	26	667	213~2,053
	平成28年3月2日	31	578	207~1,504

町の農業再生に向けて

関係産業振興課農林水産係 0240(34)0245

稲の収穫を行いました

水稲の実証栽培を行っている酒田地区の圃場で、稲の収穫が行われました。

10月10日には、東京大学、早稲田大学、新潟大学、京都府立大学、福島大学の学生・職員や、被災地の支援事業に取り組むNP



▲稲刈りの様子（10月10日）



○法人ワーカーズコープの職員が、稲刈りに参加しました。初めて稲を刈る方も多いため、地元農家の方のお手本を見ながら、一生懸命に稲を刈っていました。

稲を収穫した学生は、「楽しいけれど、こんなに大変な仕事とは思わなかった。良い経験ができた」と、貴重な体験を喜んでいました。

また、10月7日には、河川水を利用した実証栽培を行っている圃場での稲刈りが行われました。この地区では、震災前まで請戸川

◀稲刈りの様子（10月7日）

▼収穫された稲



の水を利用した水稲栽培が行われていました。この実証栽培は、元来の栽培方法を取り戻すべく、実際に河川水が水田に与える影響を調査し、用水の流下過程において、水中に溶けている放射性セシウム濃度を低減させるために行っています。農家の方は「作付を続けることに土が肥えて良いお米が穫れるようになるから、来年が楽しみ」と、来年以降の栽培に意欲をみせていました。

酒田地区における水稲の栽培は一昨年より再開されており、昨年からは、収穫されたお米は一般販売されています。28年度も、放射性物質の検査を行いながら、一般販売を行う予定です。

農産物の販売方法を考えるワークショップを開催しました

10月10日に行われた稲刈りに参加した方々が、稲刈り後に、浪江町役場にてワークショップを行いました。グループに分かれ、地元農家の方と役場職員も交じえながら、「浪江町のお米を知ってもらい、多くの方に食べてもらうために」をテーマに議論を

参加した学生たちは皆真剣な様子で、各グループ白熱した議論が繰り広げられていました。参加者からは「自分が参加して終わりではなく、どのように自分の周囲の人に広げていけるか、考えていきたい」という思いも語られました。

し、議論の結果、「日本に興味を持つ外国人をターゲットにした視察・体験ツアーを企画したらどうか」「浪江のお米を使った料理教室の開催や、ふるさと納税の返礼品に利用するなど、浪江のお米に触れる機会を増やすべき」といった提案が出されました。



ワークショップの様子